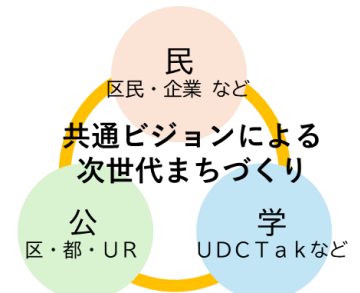


高島平地域グランドデザインの改定について

1 改定の主な目的

これからの50年・100年を見据え、選ばれるまちへと成長する持続可能な都市へと転換していくため、高島平地域の都市の骨格を高機能・高質化し、社会情勢の変化や新たな潮流等を踏まえるとともに、これまで策定された諸計画の考え方を整理・統合し、今後のまちづくりの方向性を示すものとする。

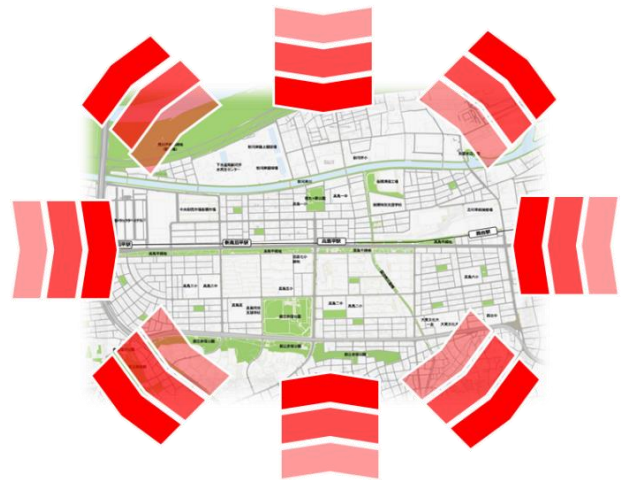
また、都市再生をけん引する交流核形成に向け、高島平駅の駅前である高島平二丁目33番街区では、効果的かつ計画的な土地利用誘導や既存の道路空間をウォークブルで、交流を生み出すシームレスな交通ネットワークへと再考を図るなど、高島平地域における、まちづくりの最上位計画としての役割に加え、地域との共創や連帯感を高めるPR（Public Relation）媒体となるような、訴求力のあるものをめざしている。



2 検討対象地域と構成イメージ

高島平地域（約314ha）を主な対象としつつ、周辺地域や区境も含む広域的な検討も行う。

なお、計画の構成としては、概ね30年先を見据えた全体構想と、概ね10年間で戦略的に実行していく計画事業を記載する予定である。



3 検討体制（案）

(1) 庁内検討組織

庁内で関係各課が連携し、横断的に施策を検討するため、課長級と係長級で構成する「高島平地域グランドデザイン改定検討会」及び「同 部会」を設置する。

(2) 外部検討組織

区民代表や独立行政法人都市再生機構（以下「UR」という。）、東京都（以下「都」という）などの関係機関に加え、アーバンデザインセンター高島平（以下「UDCTak」という。）の学識経験者などからなる「高島平地域グランドデザイン改定委員会」を設置し、それぞれの立場から知見を持ち寄る構成とする。

(3) 庁議

「高島平地域グランドデザイン改定委員会」の意見等を踏まえた骨子、素案、原案を作成し、庁議において決定する。

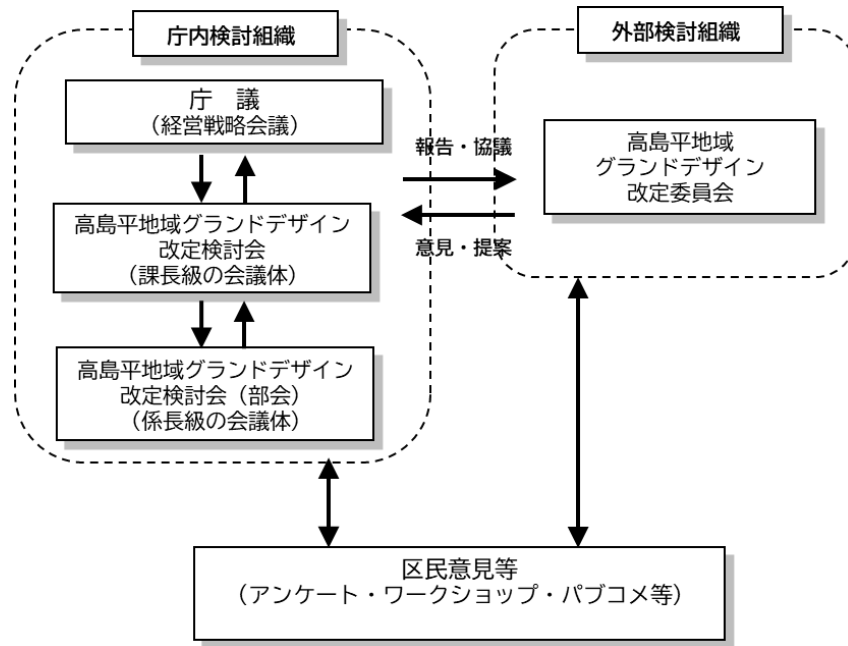


図 各会議体と意見集約の考え方

4 各ステークホルダーの役割

以下のそれぞれの立場から検討に貢献する。

(1) 住民・企業・学生等

地域住民・学生・企業等がまちづくりテーマに分かれ、課題とアイデアを創出する最初のインプット。地域の実感に根ざした意見を発掘する。

<区民意見等の聴取手法>

- ① 無作為抽出によるアンケート調査の実施
- ② ワークショップやテーマを絞った意見交換会、社会実験等の実施
- ③ パブリックコメントの実施、段階に応じた住民説明会の開催
- ④ 民間事業者ヒアリング

(2) URや都等の関係機関

施策・制度・事業との整合を図り、実現可能性を検証・調整する。住民・企業・学生等の意見を施策化する観点から評価・フィードバックを行う。

- ① URとの共同検討
- ② 都との個別協議に加え、組織横断的な情報共有の開催

(3) UDCT a k等の学識経験者

専門的・実務的な視点から施策・制度・事業提案やテーマ別WSへの伴走参加を通じて、住民・企業・学生等の議論を学識経験者の視点から補強する。

5 策定スケジュール（予定）

令和8年	6月中旬	基本方針の報告（都市建設委員会）
令和9年	1月中旬	骨子案の報告（庁議）
	2月中旬	骨子案の報告（都市建設委員会）
	2月下旬	骨子案の説明会及びパブリックコメントの実施
	5月中旬	パブリックコメントの結果報告（庁議）
	6月中旬	パブリックコメントの結果報告（都市建設委員会）
	8月下旬	素案の報告（庁議）
	9月下旬	素案の報告（都市建設委員会）
	10月頃	素案の説明会及びパブリックコメントの実施
令和10年	1月中旬	パブリックコメントの結果及び原案の報告（庁議）
	2月中旬	パブリックコメントの結果及び原案の報告（都市建設委員会）
	3月頃	策定・公表